

一〇二三年六月一六日

一〇二三年六月一二日

と見る間にエベレストなす雲の峰

せいじ

枇杷の実を絞る日照雨の珠雲

素秀

青梅雨のアブストラクト描く窓

むべ

一〇二三年六月一一日

連山の襞影濃ゆき西日かな

せいじ

麦を焼く煙幾筋湖北晴

隆松

朝まだき元気だせよと時鳥

小袖

桐箱の紐解く菓子や新茶汲む

なつき

猫二匹おきものめきし梅雨出窓

あひる

苔青き険磴聳ゆ男坂

もとこ

銀輪の吾を追抜くつばくらめ

あひる

一〇二三年六月一〇日

一〇二三年六月一五日

やよい

天心へ消えたるとなめ蜻蛉かな

ぼんこ

草を引くこと又樂し雨後の朝

擬宝珠の蓄をほどく夜明けかな

むべ

葬儀鳩翻る背の夕焼かな

素秀

川明かり弾く茅花や淀堤

はく子

うなじ涼しカットして出る美容室

あひる

毎日句会みのる選・一〇二三年六月一八日

渋滞路西日を避ける術もなく

素秀

一〇二三年六月一三日

梶包の地方新聞梅雨じめり

むべ

螢火の川面を照らす葉裏かな

ぼんこ